

神奈川県協同組合連絡協議会

かながわC☺-ネット会員組織 御中

2021年1月25日

緊急事態宣言下で制限される日々が続きそうですが、
できることを積極的に行い、連携の輪をより強固なものにしていきましょう！
本年もどうぞ、よろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症に負けない！ ～JAによる食支援の取り組み～

新型コロナウイルス感染症については、夏ごろから再び感染者を徐々に増やし、ついには二度目の緊急事態宣言が発令され、社会的な不安が広がっています。県内のJAによる食支援の取り組みの一部をご紹介します。

(1) JAセレサ川崎

- ① 例年、農業体験や料理教室など年間 60 プログラム以上を展開しており、今年は新型コロナのため中止を余儀なくされましたが、収穫したお米を地域活動に役立ててもらおうと、11 月中旬にこども食堂を運営するNPO法人アイゼンに麻生区産の新米 120kg を贈呈しました。
- ② 12 月中旬、川崎市社会福祉協議会に災害備蓄米（アルファ米 200 食分）を寄贈しました。寄贈した米は、同社協が 12 月中旬に「食糧支援かわさき+学生応援エール」として、新型コロナウイルスの感染拡大で生活が困窮している学生を対象に無料配布されました。

(2) JAさがみ

12 月中旬、JAさがみの女性組織「さわやか倶楽部」大和地区より、大和市の市社会福祉協議会に醤油やうどんなどJA購買品や地元農産物 14 種類が寄贈されました。同部は例年 11 月に開催されてきた「やまと産業フェア」でのバザーの売り上げの一部を寄付していましたが、コロナ禍でフェアが中止となりました。しかし、売り上げの寄付ができなくとも、形を変えて寄付を行いたいという思いから今回の活動が実現いたしました。

(3) JA湘南

JA湘南女性部は、食と農への取り組みの一環として、食品ロス削減・貧困問題対策を目的に、フードドライブ活動を今年度から始めました。12 月には部員約 600 人から集めた食品をフードバンクかながわへ手渡しました。同部は今後も協力を続けていくそうです。

(4) JAはだの

12 月下旬、秦野市に白米 50Kg を寄付しました。コロナ禍で生活困窮者が増加しており、秦野市は生活援護課や市社協が相談内容に応じて提供する予定です。

(5) JAあつぎ

12 月中旬、通年型食農教育事業「夢未Kidsスクール」で栽培したもち米 100Kg を「フードバンクあつぎ」を運営するNPO法人Heart34へ寄贈しました。寄付したもち米は、同法人が市内の家庭や大学、短大などに通う学生らへ配られました。

(6) JAかながわ西湘

12月中旬、児童養護施設の社会福祉法人に米「はるみ」30Kgを寄贈しました。JAは遊休農地を活用した「はるみ米」の試験栽培に取り組み、収穫した米は4年前から管内7か所の社会福祉法人などの児童や生徒らに寄贈する取り組みを続けています。今年は約200Kgを届ける予定だそうです。

(7) JA相模原市

JA相模原市 上溝支店では、新型コロナウイルス感染症の影響で恒例のイベントが開催できない中、地域貢献の観点からそれに替わるものとして、みどり組合協議会会長主催でフードドライブを行いました。食材はカップ麺やレトルト食品、お菓子などの他、お米やジャガイモなどの農産物も集まり、11月下旬に集められた食材はこども食堂などに食材配布する市内ボランティア団体に寄贈されました。

「キャベツウニ」商標登録！

厄介者を有効活用！

2019年度の地産地消・協同活動現地学習会で視察した「神奈川県水産技術センター」では「キャベツウニ」を商標登録しました。商標登録は10月21日付。生鮮のウニと、ウニの加工水産品が対象。

同センターは「商標登録は単にウニにキャベツを餌として与えているのではなく、磯焼け対策として駆除されたムラサキウニを規格外のキャベツで育て、食材として活用している背景があることを説明するのが狙い」と強調しています。

5年ほど前から三浦市の農家から規格外のキャベツや外葉を手し、養殖の研究を進めてきました。その後、県内の漁協や民間企業に技術指導し、現在では販売もされています。他にも県内各地でアスパラガス、ハクサイ、ブロッコリーなどの野菜、ミカンの皮を与えた養殖が進められているそうです。



キャベツウニ



・神奈川県水産技術センターHP：<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/mx7/kikaku/kyabetsuuni.html>

JA相模原市・JA神奈川つくい連携開発

「お茶うどん」販売！



茶うどん

JA相模原市とJA神奈川つくいは、相模原市産の小麦と茶葉を使ったオリジナル商品「お茶うどん」を製作し、昨年12月下旬から販売を始めました。

原料だけでなく、市内で加工し、ラベルデザインもJA職員が考案するなど、オール地産地消にこだわった一品。

着色料不使用で、こだわりの茶葉による茹で上がりの鮮やかな緑色が特徴。

価格は1袋(250g)で280円。JA相模原市直売所「べじたべーな」、「べじたべーな mini」、JA神奈川つくい直売所「あぐりんずつくい」で販売しているので、ぜひご賞味ください。



・べじたべーな&べじたべーな mini：

https://www.jakanagawa.gr.jp/sagamihara/tenpo/chokubaijyo_jyouhou.html

・あぐりんずつくい：<https://ja-tsukui.or.jp/agurinzu/>



参加募集

イベント・セミナー等のご案内

☆都道府県協同組合連携組織等 全国交流会議

第5回スピンオフ企画（オンライン）☆

日本協同組合連携機構（JCA）は、2021年1月29日（金）に、オンラインによる学習会を開催します。

この学習会は、JCA主催の全国交流会議のスピンオフ企画の第5回目にあたるものであり、今回のテーマは、「協同労働のプラットフォーム」についてです。

実際に地域の困りごととは地域住民の力で解決することを実践されている広島市の「協同プラットフォーム」統括コーディネーターである小暮 航氏をお招きし、学習会が行われます。

主 催：日本協同組合連携機構（JCA）

日 時：2021年1月29日（金） 14:00～16:00

会 場：オンライン開催（無料）

詳 細：下記 URL および QR コードより直接お申込みください。

申し込みフォーム URL：[https:// forms.gle/ymNEU5Xdt8PbpdfU8](https://forms.gle/ymNEU5Xdt8PbpdfU8)



☆かながわ Co-ネット福祉健康委員会「地区委員交流会 – 農福連携を知ろう！ –」☆

かながわ Co-ネット福祉健康委員会は、2021年2月5日（金）に、オンラインによる交流会を開催します。

学習テーマは「農福連携を知ろう！」、講師には藤沢市で就農支援に取り組んでいる株式会社えと菜園代表取締役 小島 希世子 さんをお招きします。

働きたくても働けない方たちに農業を教えながら社会復帰の後押しをしている小島さんの考え方や取り組みを学び、「農福連携」について考えることができる貴重な機会となっております。

どなたでも参加できますので、お気軽にお申込みください！



小島 希世子 代表取締役

主 催：かながわ Co-ネット福祉健康委員会

日 時：2021年2月5日（金） 14:00～15:10

会 場：オンライン開催（無料）

詳 細：別添チラシを参照のうえ、直接お申込みください。



☆賀川豊彦から考えるコロナ禍と私たちの生活世界の変容☆

日本協同組合連携機構（JCA）は、2021年2月4日（木）に、オンラインによるシンポジウムを開催します。

第6回目となるこのシンポジウムでは、「コロナ禍での私たちの生活の変容」、さらに賀川豊彦から何を学び、いかなる途を歩むべきかという大きなテーマを軸に、有識者が議論を行う2時間となっています。

詳細は別添チラシをご覧ください、ご興味のある方はぜひお申込みください。

主 催：賀川豊彦シンポジウム事務局

日 時：2021年2月4日（木） 18:00～20:00

会 場：オンライン開催（無料）

詳 細：別添チラシを参照のうえ、直接お申込みください。



➤新型コロナウイルス感染症による社会への影響が続いています。会員組織での困り事をはじめ、告知を希望する行事、提携事例等がありましたら下記までご連絡下さい。

＜担当事務局連絡先＞

J A 神奈川県中央会 J A 改革対策部 (担当：山本・丸岡) TEL 045-680-3002 jakaikaku@chu.kn-ja.or.jp

神奈川県生活協同組合連合会 (担当：相田) TEL 045-473-1031 Yuji.Aida@ucoop.or.jp